

アベサンショウウオ

Hynobius abei Sato

有尾目サンショウウオ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧 I 類

国カテゴリー 絶滅危惧 I A類

選定理由

生息地が人間の生活する場と重なっているため、都市化や開発による生息環境の悪化が進んでおり、絶滅の危機に瀕している。

形態

成体の全長86～127mm。全般にオスはメスより大きく、特にオスの尾長・最大尾高はメスに比べて大きい。繁殖期のオスは尾がひれ状になる。

国内分布

兵庫県但馬地方、京都府丹後地方、福井県北部・越前市西部・嶺南東部地方、石川県南加賀地方。

県内分布

小松市・能美市の一部に生息。

生態

産卵は12月中旬～1月上旬（成体は繁殖期以外には現れない）。卵嚢は透明なひも状で、外皮には縦の条線がある。幼生は2月中旬～下旬に孵化し、変態した幼体は7月下旬～8月上旬に上陸する。

生息地の条件

産卵場（標高35～150m）は二次林に接した休耕田脇の水路、沢筋の湿地、湿地化した放棄田、伏流水の出口部などで、いずれも緩やかな流れがある。

生存の危機

2004年12月～2008年3月の調査では、能美市と小松市をあわせて毎年約40対の卵嚢を観察した。発見できなかった卵嚢を考慮しても、本県に生息する成体の総個体数は200以内と思われ、産卵場の現況からみてこのまま推移すれば絶滅するおそれ大きい。（A）

特記事項

国内希少野生動植物種。これまでに卵嚢・幼生・成体のいずれかを確認したのは、能美市の6地域、小松市の10地域である。

参考文献

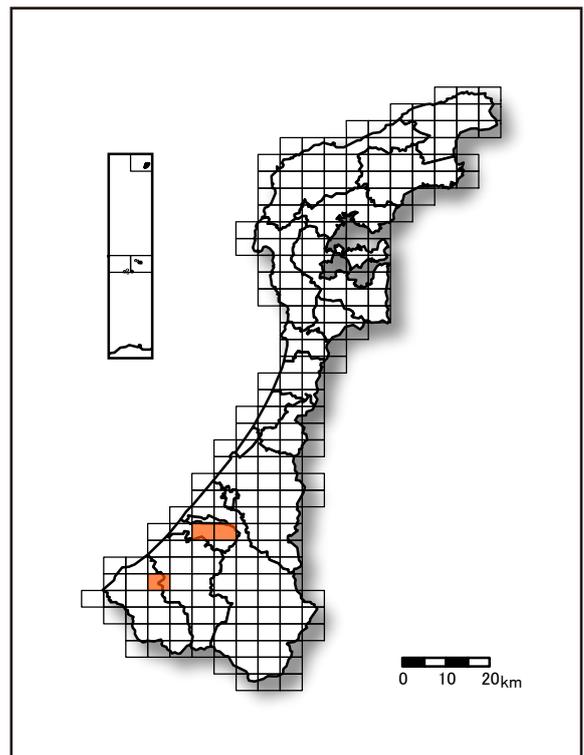
川内一憲ほか 2005. 両生類誌(15) : 22.

松井正文 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物(爬虫類・両生類). p. 72-73. 自然環境研究センター.

宮崎光二 2008. いしかわ自然史(43) : 1.



写真提供者: 宮崎光二



県内の分布